深い学びのために

学習のポイントの解答例

1　**「夏草や」「五月雨の」の句には、それぞれ作者のどのような心情が込められているか、考えてみよう。**

【答】「夏草や」の句には、奥州藤原氏の栄華や義経主従の勇壮で悲劇的な最期も、時の経過と共にはかなく忘れ去られることを痛感した作者の心情が込められている。

「五月雨の」の句には、逆に、長い時間的経過の中でも光堂がはるか昔の姿をとどめていることに深く感動した作者の心情が込められている。

▼ポイント▲　「夏草や」の句からは、「功名一時の叢となる」の一文や、杜甫の「春望」にみられる「城春にして草青みたり」の一節が想起される点など、表現上の類似点から、さまざまな作品との密接な関連性がうかがえることにも着目したい。

言葉と表現の解答例

1　**次の傍線部の助詞の用法を、確認してみよう。**

(2)　(1)　**夏草や兵どもが夢の跡（一〇三・11）**

(2)　**すでに頽廃空虚の叢となるべきを（一〇四・3）**

(3)　**五月雨の降り残してや光堂（一〇四・6）**

【答】(1)(2)　格助詞（連体修飾格）　(3)　格助詞（主格）

▼ポイント▲　「が」は現代語のような主格を表す用法よりも、「…の」と訳し、体言の修飾を表すことが多い。「の」については、他にも同格（「…で」）や比況（「…のように」）などの用法もあるので、文脈に応じて適切な解釈を施せるように注意したい。

言語活動の解答例

1　**「夏草や」「卯の花に」の句を詠む際に想起された歴史上の出来事について、それぞれ調べてみよう。**

【答】（意図）「夏草や」「卯の花に」「五月雨の」はそれぞれ歴史的事実を背景に詠まれた句であることを、関連する史実を調べて気づかせる。

（手順）

1　教科書の脚注や資料集、図書室の資料、インターネットなどを活用して、源義経とその主従が奥州へ落ちていった理由、奥州藤原氏の歴史などを調べる。

2　調べたことを整理し、芭蕉がそれぞれの句を詠んだ場所でどのような出来事が起こったかを確かめる。地図に書き入れるなどしてもよい。

3　それぞれの発句を読み返してみて、どのように印象が変わっ

たか、考えさせる。鑑賞文を書かせてもよい。

（ゴール）発句が詠まれた歴史的背景を知ることで、発句への理解、鑑賞を深めさせたい。特に、歴史的背景を知ることで、それまで何の変哲もなかった風景の見え方が変わり、作品についても新しい解釈が生まれる可能性を生徒達に実感してもらいたい。

（小林　俊洋）